

2000.5.29

北海道国際航空株式会社

[報道資料]

エア・ドゥ 平成 11 年度の決算について

1. 営業の概況

平成 11 年度は、前期 10 年度が既存航空会社との運賃優位性を背景に 83.2%という高い搭乗率を残すことができたのに対し、6 月以降、既存社が弊社運航時間帯を挟む前後便の運賃について繁忙期間を除いて同額運賃を設定してきたため、マイルージ等の付帯サービスを持たない弊社は極めて厳しい競争環境に置かれました。

このような環境の中、弊社の営業実績は既存各社の同額運賃施策が浸透するにつれ、平成 11 年 6 月には搭乗率が就航以来最悪となる 44.0%となりました。夏休み多客期間には驚異的な搭乗率 98.7%を記録できたものの、その他の期間は低迷が続いたため、会社存続のため止む無く平成 11 年 12 月以降の多客期について多客期運賃（20,000 円）を導入いたしました。多客期の運賃を上げたものの、既存社水準より低い運賃であったため、弊社の運賃優位性が復活し、年末年始や春休み期間の搭乗率は前年度を上回ることができました。これらの結果、平成 11 年度の輸送実績は、提供座席数 612,898 席、搭乗旅客数 421,231 人、搭乗率 68.7%となりました。今期の搭乗率は残念ながら前年度を下回りましたものの、株主をはじめご支援頂いた皆様のおかげで、既存社の搭乗率を上回ることができました。

運航面では、法定の機体整備が概ね年一回発生しますが、所有機が 1 機のみであるため 6 月に 6 日間にわたる合計 32 便の計画的運休を行い、また悪天候等による欠航も発生し合計 21 便が運休しました。これらの結果、平成 11 年度の運航便数は 2,143 便、就航率は 99.0%、定時出発率は 96.2%となりました。就航 2 年目にも係らず、既存社並みの高い運航実績をあげることができたことは、関係当局並びに委託会社のご協力の賜物と感謝しております。また平成 12 年 2 月 6 日には、初就航以来 413 日目で記念すべき 50 万人目のお客様をお迎えすることができました。

社内体制としては、この極めて厳しい経営状況を乗り切るため、1 月 20 日付けで迅速な意思決定と確実な経営目標の達成を目的として、本社機構の札幌集中配置、組織変更、執行役員制度の導入、常勤役員会の設置を行いました。更には 1 月 24 日には首都圏での販売体制強化のため、東京営業所を開設いたしました。年度末の 3 月には 2 号機受入れに向けた営業スタッフの増強を主とするの社員の増加に対応するため、本社移転を行ないました。

2 . 平成 11 年度の事業収支

11 年度の事業収支は、営業収入が 6,251 百万円、営業費用が 7,548 百万円となり営業損失 1,297 百万円を計上いたしました。これに繰延資産として処理している開業費償却等を加えた経常損益は、1,708 百万円の損失を計上いたすこととなりました。更に、特別損失として、為替差損及び過年度事業費が 435 百万円を計上した結果、当期損失は 2,152 百万円となりました。

以 上